

# 大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略外部検証結果

政府のま  
ち・ひと・し  
ごと創生法に  
基づき、大山  
町でも、人口  
動向、将来人  
口推計の分析  
を行いまし  
た。

この将来人  
口推計および  
国の総合戦略  
を勘案しつ  
つ、今後5年  
間の目標や施  
策の基本的方

向、具体的な施策をまとめた「大山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

この施策については、政策分野ごとの基本目標を明確に設定し、重要業績評価指数（KPI）により、施策の効果を検証し、改善を行う仕組みを構築しています。

その際、効果検証の客観性を担保するため、外部有識者を含む委員で構成する「大山町しごと・ひと・くらし創生創業戦略外部検証委員会」を設置し、数値目標に限らない広範囲な視点からの検証作業を行うこととしています。



▲住民ワークショップ

事業名	目的	成果（実績）	検証委員の主な意見
大山町総合戦略策定事業	地方創生事業に係る人口ビジョンなど、総合戦略を策定する。	大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略を策定した。	総合戦略の見直しについて検討
大山町の新たな価値創造事業	大山町の資源を活用し、実践できる仕組みの構築と、人材確保及び人材育成を図る。	実践を通じ、新たな仕事もたらされ、移住者呼び込むことができた。	観光事業など、幅広く活用できる。他の事業と連携すると効果が上がるのではないかと。
地域の「稼ぐ力」創生事業	若者や女性、働き盛り世代にとって魅力ある職場を生み出すための人材スクールの設立。起業へのチャレンジを促す。	魅力ある職場を生み出すことができた。また、起業へのチャレンジを促すこともできた。	人材育成スクール参加者をフォローする体制づくりが必要。金融機関として支援、協力していきたい。
大山グルメ食堂飛躍編事業	大山の「食」を町の魅力として確立するため、商品パッケージ改良やホームページの改善を支援する。	商品パッケージ改良やホームページの改善など支援を行い、魅力ある商品づくり、価値の向上及び収益の向上につながった。	インターネット、ブログを利用したPRをリアルタイムにしてはどうか。 商工会や金融機関のビジネスマッチングを活用してはどうか。
伯耆の国大山開山1300年事業	大山開山1300年に合わせ、広く大山圏域の活性化の取り組みを行う。	大山開山1300年の準備会を設立し、地域住民の機運を高めるため、シンポジウムを行った。	周辺地域と連携を密にする。スピーディーな事業の具体化が必要。 大山参道や宿など、もっと魅力あるものにする。
大山エコトラック事業	従来のパッケージツアーから脱却し、大山町の食や歴史文化を体験できる仕組みづくりを行うとともに、この事業に係る町内事業者の育成を図る。	大山エコトラックを進めるため、大山町内のコース設定やアプリ開発、自転車などの備品を購入し、基盤を整備した。	大山開山1300年事業と共に、大山の観光に大きく影響する事業と認識している。 地元にお金が落ちる仕組みと、魅力ある商品開発に努める必要がある。 ツアー商品を期待する。